



集落支援だより

皆さんこんにちは！

暑い日が続いていますが、元気にお過ごしでしょうか。

4月に地域おこし協力隊として西会津にやってきました、

集落支援担当の廣田旬紀です。

今回は、集落支援の仕事内容や着任してからの活動内容について紹介します。



地域おこし協力隊 集落支援担当

ひろた しゅんき
廣田 旬紀 隊員

地域をつなぐ活動

本年度から、集落支援担当の協力隊が私を含め3人になり、集落支援員・企画情報課の担当職員とチームを組み、「チーム集落支援」として地域活動の支援、限界集落の見守り活動など、各々精力的に活動しています。

私の主な役割は、町内全域を対象とする集落支援です。住民の皆さんや町内団体などとは交流して、日々支援のあり方を模索しています。

4月には、町社会福祉協議会が設置する協議体「ささえ愛支援会議」の本年度第1回目の会議に参加しました。

当日は、参加者同士がグループに分かれ、地域の支え合いについて情報交換や意見交換を行いました。住民同士がどのように助け合い、安心して暮らせる地域をつくっていくのかを話し合う、貴重な時間となりました。

その会議で話し合ったことをきっかけに、6月に上野尻自治区で開かれた「須刈ふれ

あいネットワーク」の全体会議にも参加し、地域での見守り活動の仕組みや工夫について、より実践的な視点から学ぶことができました。



イベント支援

ほかに、イベントの運営補助を行いました。まずは、着任してすぐの4月19日、奥川・小屋集落にて開催された「カタクリ鑑賞会」。



春先の天候に開花が間に合うか心配しましたが、見事に満開！足元にも可憐なカタクリの花が咲き誇り、来場された皆さんは紫の花々に、長く厳しかった冬の終わりと春の訪れを感じている様子でした。当日は、町内から多くの人が訪れたほか偶然通りかかった県外の人も足を止め、その美しさに見入っていました。

他にも春の人足、田植え体験、奥川七観音ウォークなどのイベントの運営補助を奥川地域づくり協議会や観光交流協会と連携して担当しました。町内外、ひいては首都圏からの参加者と地元の人たちが

共に汗を流して交流する姿が見られた他、私自身も地域の歴史文化をより深く知る良い経験ができました。



支えあうこの町で

大阪で生まれ育ち、大学時代は仙台で過ごした私にとって、西会津での生活は毎日新しいことの連続です。「なんでこんな田舎に来たの？」なんてよく聞かれますが、私にとってこの町は「田舎」というより、「人のあたたかさ」と自然や歴史文化の豊かさが詰まった場所」なんです。そんな場所で皆さんと一緒に暮らし、学んでいけることがとても嬉しいです。一歩ずつ成長していきたいです。